

網膜色素変性に対する同種 iPS 細胞由来網膜シート移植に関する 臨床研究の移植後 1 年経過報告

1 概要

- ・神戸アイセンター病院副院長・平見 恭彦（当研究の研究責任者）が第 76 回日本臨床眼科学会（令和 4 年 10 月 13～16 日）において、移植後 1 年の経過報告を発表しました。
- ・本臨床研究は網膜色素変性の患者に対し、京都大学 iPS 細胞研究所（CiRA）が備蓄する他家の iPS 細胞より作製した網膜シートを移植し、網膜組織の生着、視機能の回復を目指すものであり、今回の臨床研究はその第一歩として安全性の確認を主な目的とするものです。
※症例数は 2 例（1 例目は令和 2 年 10 月、2 例目は令和 3 年 2 月に移植）、移植後の観察期間は 1 年間。
- ・今回発表した移植 1 年後の経過内容は、以下の通りです。

- 網膜シートの生着による網膜厚の増加を認めた。
- 移植網膜シート及び移植術に伴う重篤な有害事象を認めなかった。
- 移植術による視力・ハンフリー視野の改善は認めなかったが、重度の視覚障害の評価法で改善を認める症例があった。
- 今後、治療開発に向けて有効性の検討をさらに進めていく予定である。

<概要図>

